

「ヒーローに救われて考えたこと」

富山県立新湊高等学校二年 水上 薫

あなたは、税金の有り難みを感じているだろうか。

私は病気を持っている。三歳の頃に自己免疫疾患・脱毛症という病気になり、十六歳の今でもその病気と闘っている。この病気は未だ詳しい原因が不明で、正確な治療法も分かっていない。そのため、幼い頃は二から三ヶ月に一回、症状が酷い時は二週間に一回のペースで大学病院に通っていた。

そして中学生になった時、ひとつの疑問がうまれた。病院にいつも持っていくピンクのカードの存在についてだ。一体、これの正体はなんだろう。何のためのカードなんだろうと、いつも疑問に思っていた。調べてみるとこれは、受給資格証というものだった。私の住む射水市では、子育てにかかる経済負担の軽減を図るため、十八歳までの子供の入院および通院にかかる医療費を助成してくれる、「子ども医療費助成制度」という制度が定められていた。そこで、受診する際に健康保険証とこの受給資格証というピンクのカードが必要だったわけだ。医療費はもちろん税金からくる。つまり、顔も名前も知らない誰かが私の病気を支えてくれていた。

しかし、小学校高学年の頃から治療をしても成果が出なくなった。もちろん今受けられる治療をして成果を出して病気を治すことが目的だと分かっていたが、いくら治療しても少しも髪が生えてこず、むしろそのストレスで髪が抜ける一方だったので治療を中断しようと思った。そんな時、私は病気が発覚したときの両親や家族の気持ちを考えるようにした。すごくショックだっただろう。どんどん髪が抜け落ちる私を見て何を感じていただろうか。ある時、母は私に

「強い体で産んであげられなくてごめんね。すーちゃんは女の子だからおしゃれもしたいやろうし、治療も辛いよね。ままが変わってあげたい。」

と言った。

目には涙が浮かんでいた。それだけ私と同じくらいに病気に対して負担や不安が大きかったと思う。そんな中でも両親の負担のひとつである医療費を射水市の子ども医療費助成制度が支えてくれていた。そしてその先には私を支えてくれるたくさんの人の存在があることに気がついた。何度もたくさんの人お金で治療に挑戦できることは当たり前ではないのだなと思った。

税のおかげで救われる人や助かる命がある。税によって人は、たくさんの病気で悩む人の“ヒーロー”になっているのだ。そんな私も税を納める人の内の一人だ。なんで税金を払うの？と聞かれたら私は自信を持って答える。

「誰かの“ヒーロー”になれるからだよ。」
と。